

平成29年度大学職員情報化研究講習会
研修報告

C 1班 「赤富士」

日時 平成29年7月18日～7月20日

会場 浜名湖ロイヤルホテル

発表テーマ「学生生活におけるミスマッチの解消に向けて」

大学の役割と現状

・大学の役割とは

現在、大学は産学連携や地域社会との連携など、様々な役割を担っている。なかでも、社会に必要な人材を育てるべく、充実した教育の実践は、教育機関として重要な役割である。本グループは、社会に必要な人材とは、社会で通用する力を持つ人間であり、能動的・自律的に行動する力を持った人間のことであるとした。このような学生を育成し、社会に輩出することは、大学の役割を果たすとともに、社会貢献につながり、社会からの大学評価の上昇につながると考える。

現状と問題点

各大学では、毎年多くの学生を受け入れ、教育とその内容の充実化に取り組んでいる。その中で、学生対応の中での実際のケースをもとに、現状とそこから考えられる問題点を挙げ、まとめた。

【現状】 “楽に単位が取れる授業”を聞きに来る学生がいる。	【問題点】 ・「大学を卒業する（最終学歴が大学卒業）」が目標。 ・学部が提供する講義内容に興味や、学習するうえで目標を持つことができない。 ・その場しのぎの勉強（知識が定着していない）。
---	---

問題の深堀とテーマの選定

では、なぜ問題点であげたような学生が多く存在するのだろうか。検討の中で原因は、学生の興味分野と学部が提供する授業内容にミスマッチが起こっているからではないかと考えた。ミスマッチが起こることにより、学生の学習意欲の低下、講義・研究に対して受け身な姿勢を取ることに繋がっていると考えられる。それらにより、学部が提供するカ

リキュラムを受けることで、本来ならば身に付くはずの力が身に付かない、さらには、退学者の増加につながり、これらが頻繁に起こる大学は、社会からの評価が低下するといった影響を引き起こすだろう。

解決策の提案

すでに様々な大学で入学後のオリエンテーション、1年次対象セミナーの開催や内容の充実化を学生生活におけるミスマッチの解消手段として行っている。しかし、本グループでは、入学試験前の受験生に対し、大学や学部選択の段階でミスマッチが生じないように対策をとることができるのではないかと考えた。受験生への情報提供手段をオープンキャンパスなど既存のものに加え、新たな手段を加えることで、より早い段階でミスマッチを無くすることができる。

オープンキャンパス内で行われる模擬講義や公開授業は、45分から60分程度の通常授業よりも短縮したもので、内容も縮小されており、大学の授業や研究内容の良い面だけに目が引かれがちである。そこで、より大学の授業の内容や、キャンパス全体の雰囲気を感じることができる機会を提案する。

A, 受験生への実際の授業の映像配信

全15回の授業映像をインターネット上での配信。オープンキャンパスに参加した受験生に、模擬講義配信ページのURLや、パスワードを渡すことで、閲覧が可能となる。

B, 長期の大学授業体験の場をつくる

Aと同じく全15回の授業を体験してもらうが、実際に受験生が大学へ足を運ぶことで授業を体験することができる。大学に来てもらうことで、オープンキャンパス時の非日常の様子ではなく、通常の雰囲気を体験してもらうことができる。

A, Bについて、事務職員は授業や教材の情報公開設定や、企画の効果的な広報戦略の考案と実行、情報発信プランの策定などを行う必要がある。また、教員に対してもミスマッチが起こっているという現状の情報共有と、協力体制の構築を行うことが必要となる。

まとめ

学生生活におけるミスマッチは、学生の学習意欲の低下、講義・研究に対しての受け身姿勢だけでなく、退学となれば20歳前後の貴重な期間を無駄にしてしまう。また、大学側にとっても、日本社会からの低評価や、学費による収益が下がることとなる。

本グループでは、入学前の解決策の提案を行ったが、教員との協力体制の構築や、授業の公開範囲の設定など、課題は多い。だが、解決策を実行することで、自立的、能動的に行動できる学生を育成できると考える。